

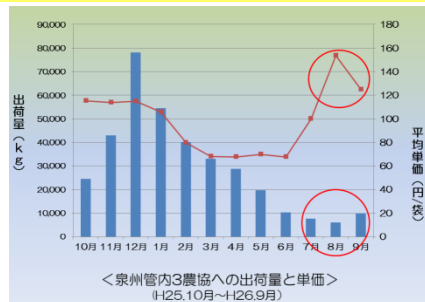
夏バテしないしゅんぎく栽培

～夏季のしゅんぎく栽培の改善による所得の向上にむけて～

泉州農と緑の総合事務所農の普及課

活動の背景

大阪府のしゅんぎくは根付きで収穫する「株張り型」が中心に栽培され、全国2位の生産量を誇る。中でも堺市から岬町までの泉州地域では、府内の70%を生産している。しかし、6月から9月の夏季は出荷量が減少し、それに伴い単価が上昇。



課題

夏季のしゅんぎく栽培は高温による発芽不良や生育初期の立ち枯れ症状を始め、生育後期の芯枯れ症の発生等の生育障害が多発している。農の普及課では近年、夏季しゅんぎくの安定生産にむけ、各種の取組を行っている。これらの結果を踏まえ、しゅんぎくの夏季栽培指針を作成し、安定した周年栽培を目指す。



高温による発芽不良

取組内容

平成25年度

遮熱被覆資材メガクールを用いて地温を下げることで、品質及び収量の向上を図った。

猛暑期における地温は、慣行の遮光資材に比べ試験区の方が高く、商品になる収量は若干試験区の方が低かった。つまり、大阪の猛暑には力不足だった。

メガクール区

慣行資材区



平成26年度

貝塚市の夏季しゅんぎく生産者4名の土壌条件の分析



砂を客土している生産者3名のほ場については大きな土粒の割合が多く、砂を客土することにより、大きな土粒の割合を増やし、排水性をあげていることを確認した。

平成27年度 砂客土試験と農業者への聞き取りや生育調査
これらに基づき、推察される栽培のポイントやかん水量のイメージを作成した。

夏季しゅんぎく栽培のポイント

作付前	は種	は種後1, 2週間	収穫
排水性の改善	軟弱徒長と芯枯れの抑制	発芽の促進	発芽を揃え、根の伸張を促進
			生育を揃え、病害を抑制

①土づくり→砂客土→施肥なし

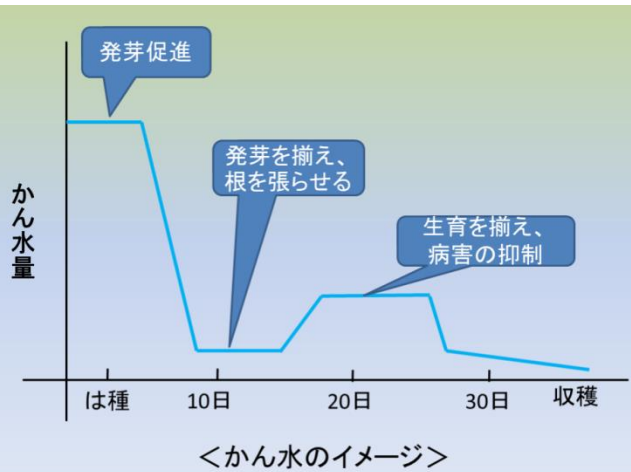
(有機物の施用)

②かん水(時間帯は夕方) 十分に→我慢する→少なめに

③遮光(遮光率60%程度) →

④夏向きの品種

⑤は種量は1,2割増



平成28年度 前年の聞き取り内容に基づく品種比較や砂客土の継続試験、推察された栽培ポイントの補強のため新たな農業者への聞き取り調査を行った。

成果

○栽培ポイントをまとめて資料化を行うとともに、その資料を用いた講習会を行い栽培農家へ周知している。